和歌山への私の提言

ティアノ　ゲズ　ピア
（教育学部　交換留学生）（フランス）

町のある風景には、様々なものがある。風景が魅力となる町をけいせいにしていくためには、風景そのものについて考える必要がある。

和歌山城は大きな地域資源だが、これ以外にも今まで気づかなかった地域資源は数多くあると思われる。普段は意識されないものであっても、和歌山を訪れる交流客にとっては、それが独特の地域資源であり魅力となるものもある。

そう考えていくと、地域資源の掘り起こし作業は非常に重要である。そして市民が祖も資源を大切に思い、磨きをかけていこうとする活動が、まちづくりに市民が積極的に参加するまちの形成には大きな力となる。

花や緑が多いまちであることはもちろん、癒される風景があることも町の魅力の重要な要素である。また、暮らしの風景が魅力となるような空間があることも必要である。このほか、自然の風景、心和ぎむ風景、いにしえの風景やモダンな風景、アジア風景など、多種多様な風景をまちの魅力として保っていく努力が、新しい城下町を形成していくことだろう。

一方で、中心市街地のまち並みについて、市民それぞれが、誰が何をできるがを明確かにし、その活動を積極的に行おうとする街並み点検隊事業は、市民が役割分担をして、まちの風景の問題を解決していくなど、時間がかかっても、「まちは市民のもの」として風景の質を高めていくことになる。

まちを維持していくための身近な課題として、ごみ、落書き治安、清掃など様々なものがある。また、景観上の課題や、まちを利用する上での課題、つまり、看板や占用許可など、すべき規制上の課題がある。これらについて市民が、主体的に行政と連携を保ち、風景改善・規制緩和等の合意形成及び解決策の実施を図る風景改善・規制検討事業では、市民とそれを支援する行政が、納得しながら問題点を一つ一つ解決していく過程が在り、その過程でコミュニティ意識が醸成され、人々の意識が向上することによって、徐々にではあっても美しいまちが出来上がっていくと考える。

中心市街地は、交流の舞台であり、交流の受け皿である。そのためには、人に優しいまちであることと、人がやって来やすいまちであることは重要な課題である。ここでは、市民レベルのネットワークが充実したまちであることはもとより、市民等の活動の場があることが必要である。またゆっくりと留まれる場所を創造し、目的がなくとも歩き回れるようなまちを創る必要がある。